

聖霊降臨節第4主日・花の日・こどもの日礼拝説教要旨(6月14日)

『幼子のように』早川 真牧師

マタイによる福音書 11:25-30

イエス様は地上におられた時、目の見えない人を見えるようにしてあげたり、耳の聞こえない人を聞こえるようにしてあげたりしておられました。実はイエス様が生まれる何百年も前に、預言者と言って神様の言葉を話す人が、やがて救い主が来て、そうやって目が見えない人の目を開き、耳が聞こえない人の耳を開いてくださると預言していました。

イエス様の時代、聖書をとってもよく勉強している人たちがいました。それは律法学者、ファリサイ派の人たちでした。でも不思議なことに彼らはイエス様が救い主だということが分かりませんでした。律法学者やファリサイ派の人たちは自分たちで作った決まりのせいで本当に大事なことが見えなくなっていました。そして見えるはずのイエス様の素晴らしい御業が見えなくなってしまうと、聞こえるはずのイエス様の素晴らしい教えが聞こえなくなっていました。そしていつも決まりを破っていないか緊張して過ごしていました。

イエス様の軛を負ってイエス様に学ぶとは、神様を愛し、人を愛することを学びながら生きるということです。学校でも社会でも、私たちは生きていく上でいろんなことを教えられていきます。でも本当に大切なことはたった一つ。神を愛し、隣人を愛する、このことだけだによってイエス様は教えて下さいました。

私たちが緊張して疲れている時は、あれもしなくちゃ、これもしなくちゃ、と人の教えにばかり気を取られている時かもしれません。そんな時はイエス様のもとに行ってゆっくりと休みたいと思います。そしてイエス様と一緒に、イエス様に学びながら、幼子のように神様の愛を受け、また一歩歩き出していきたいと思います。